

標本ライン選択サポート

特徴

調査地内の立木配置や混み具合を考慮して、適切な標準地となる「**標本ライン**」を選択できます。標本ラインの始点と終点を周囲測量の杭に設定すれば、現地での標本ラインの位置確認もスムーズに行えます。

操作はとても簡単です。「**樹頂点検出ツール**」と連携できるので、樹頂点の座標と周囲測量のデータを入力すれば、立木配置図と混み具合がほぼ自動的に計算され、それを参照しながら、標本ライン候補を設定することができます。

周囲測量データと樹頂点座標を入力

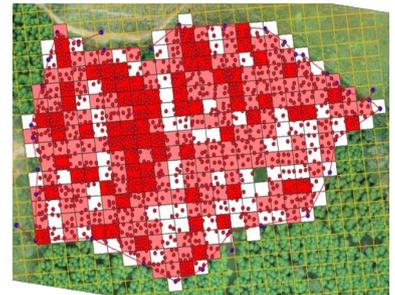
解析に必要なデータはふたつです ①周囲測量した測点の座標値、②区域内の樹頂点座標
これらをアプリのシートに入力します。

林分粗密度のマップ化

樹頂点検出ツールで得られた樹頂点の座標から、調査区域内の立木の混み具合（林分粗密度）がほぼ自動的に算出されます。



図中の黄点は立木の樹頂点



10mメッシュの林分粗密度（立木本数）

標本ライン候補の設定

調査地全体の立木配置や林分粗密度を参考にして、標準調査として適切な「**標本ライン**」を選択することができます。

設定する「**標本ライン**」は、区域設定した測量杭を目印として、標本ラインを選択するので、その後実施する「**標準木調査**」や「**地上レーザ計測**」もやりやすくなります。



標本ラインは現地で確認して決定

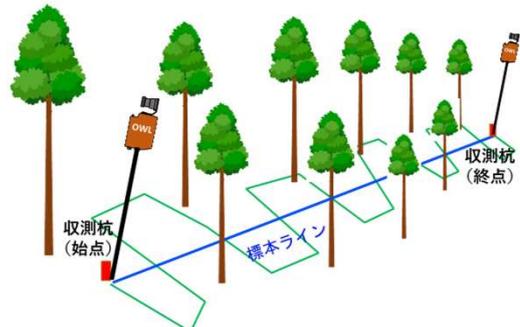
候補となる標本ラインは2～3本を選んでおきます。
最終決定は、林分状況等を現地確認して決定します。

現地調査

標本ラインが決定したら、標本ラインに沿って**標準木調査**および**OWLによる地上レーザ計測**を行います。
現地調査が終了したら「**収穫調査集計レポート**」アプリで、収穫調査の取りまとめを行います。



標準木調査： 樹種、品質、直径、樹高を計測



地上レーザ計測： 帯状の範囲で直径と立木位置を計測